

一内水研通信一

第 21 号
令和 6 年 6 月

千葉県水産総合研究センター
内水面水産研究所
〒285-0866 佐倉市白井台 1390
TEL 043-461-2288
千葉県農林水産技術会議

漁業協同組合がコイ・フナ類の人工産卵床を設置

第 5 種共同漁業権を免許された漁業協同組合には、種苗放流等の増殖行為が義務付けられています。しかし、コイについては平成 15 年に発生したコイヘルペスウイルス病の蔓延防止を図るため、それまで行われていたコイの種苗放流を休止していました。当所では、種苗放流に替わる増殖手法として、人工産卵床による増殖手法を開発し、コイと同じ産卵行動をとるフナ類にも有効であることを示すとともに、産卵基質の改良を重ねてきました（「改良型コイ・フナ類の産卵床の作り方」を参照）。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-suisan/suisan/soshiki/naisuimen/koi-huna-spawning-bed.html>)

漁業権の切り替えに伴い、令和 6 年度からコイの漁業権を持つ漁業協同組合は、人工産卵床を設置することになりました。当所としてもこの増殖手法が定着するよう指導していきたいと考えています。



ヨシ周辺に設置された産卵床(亀山湖)



産卵床を管理する漁業者(利根川)

コイ・フナ類の人工産卵床の設置手法に係る説明会を開催

人工産卵床について理解を深めるため、令和 6 年 2 月に説明会を開催しました。当日は漁協関係者など約 30 名の方々が参加され、当所から①コイ・フナ類の増殖効果、②人工産卵床の作り方及び設置方法について産卵基質のサンプルを配布して解説しました。参加者は、具体的にイメージできたようで、産卵床の設置時期や作業日誌の記録方法など活発に質問をしていました。

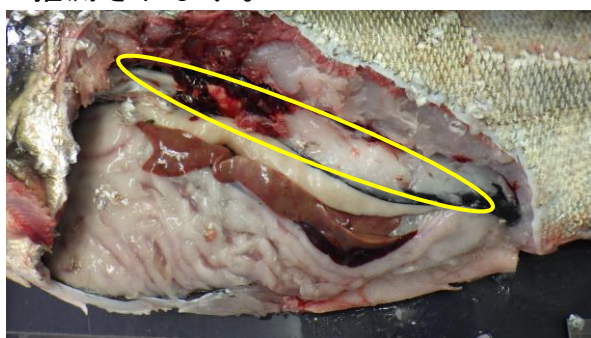


熱心に耳を傾ける参加者

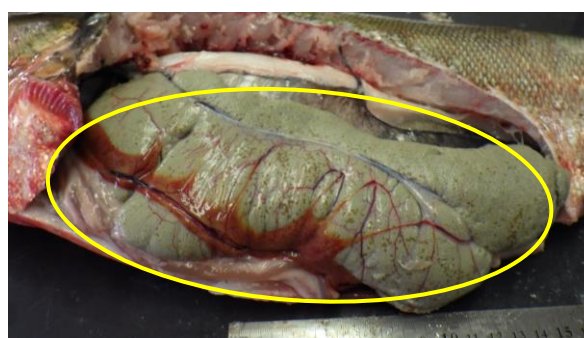
手賀沼で成熟したハクレンを採集

令和6年6月5日に手賀沼で行った魚介類相調査において、ハクレン11尾を採集しました（全長630～715mm，平均670mm：雄4尾，雌7尾）。採集された雌の生殖腺体指数（生殖腺重量/重量×100）は17.7～24.2%と高く，成熟していることを示しています。手賀沼では平成30年10月に当歳魚と思われる小型のハクレン（全長128～201mm，平均156mm）を多数採集後，令和元年、令和3～5年にも継続して成長したハクレンが採集されており，これらが成熟したものと考えられます。

令和6年5～6月には手賀沼でハクレンが大量に死亡し，関係者を困らせました。利根川では，埼玉県羽生市から茨城県五霞町の地先まで遡上し，6～7月に産卵することが知られています。産卵に向けて遡上しようとする行動と死亡との関連性が推測されます。



雄の生殖腺

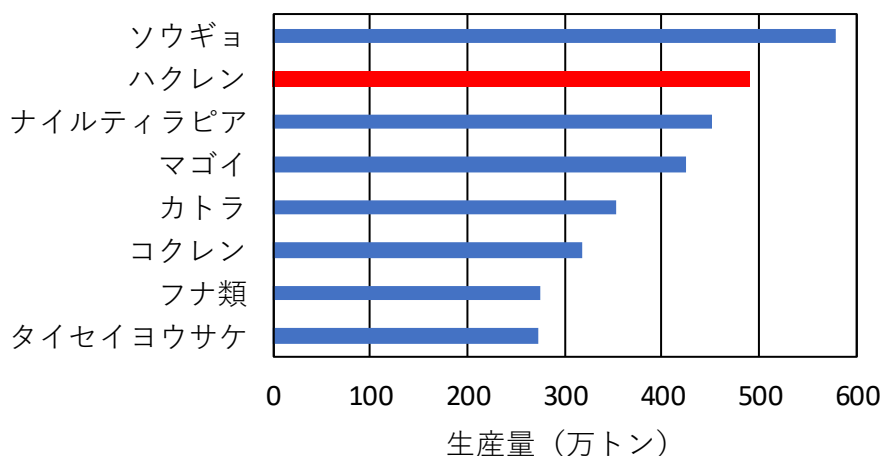


雌の生殖腺

アジアで養殖が盛んなハクレン

日本の食卓には馴染みのないハクレンですが，中国や東南アジアでは一般的な食材で，世界の養殖生産量では上位を占めています。本県では，平成21～22年度に栄町，栄町商工会及び印旛沼漁協が研究会を立ち上げ，食材利用を検討した経緯があります。今後は飼料の原料などへの有効利用を模索する必要があると考えています。

令和2年の世界の養殖魚種別生産量



※国連食糧農業機関の2020年水産物統計データをもとに作成